甲州市文化財調査報告書　第14集

平成23年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2013

甲州市教育委員会

甲州市文化財調査報告書　第14集

平成23年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2013

甲州市教育委員会

序

甲州市は塩山・勝沼・大和の各地域からなりますが、それぞれが独自の歴史文化を築いてきたため、豊富な文化資源に恵まれている市です。

遺跡についても同様で、市内には勝沼氏館跡・甲斐金山遺跡（黒川金山）の二つの国指定史跡が所在し、他にも多くの遺跡が眠っています。

本書は、平成23年度に国庫補助事業として実施した、市内遺跡発掘調査等事業にかかる報告書です。23年度は3ヶ所の遺跡について試掘調査等を行っています。

今後も市内遺跡の保護保存が図られるよう、国・県のご指導もいただきながら、発掘調査事業を進めていきたいと考えておりますので、関係各位には一層のご協力をお願い申し上げます。

平成25年3月31日

甲州市教育委員会

教育長　保坂　一仁

例　言

1　本書は、平成23年度市内遺跡発掘調査等事業にかかる実施報告書である。
2　事業は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金により行った。
3　事業の期間は、平成23年4月1日から平成24年3月31日までである。
4　本書にかかる出土品、図面、写真等の記録類は、甲州市教育委員会で保管している。

凡　例

1　本書中、各遺跡の位置図は国土地理院発行の1/25,000地形図を、調査対象範囲図は1/2,500甲州市都市計画基本図を改変して使用した。
2　縮尺、方位等は各図中に示してある。

目　次

序
例言・凡例・目次
第1章　遺跡の所在確認業務について……1
第2章　発掘調査等について……1
第3章　発掘調査等の概要……2
　第1節　事業費……2
　　1　事業経費収支予算書……2
　　2　事業経費収支精算書……3
　第2節　発掘調査等……4
　　1　宇賀屋敷遺跡……4
　　2　殿林遺跡……10
　　3　五反田遺跡……14
　抄録・奥付

第１章　遺跡の所在確認業務について

平成 23 年度の甲州市教育委員会における文化財関係組織は、次の通りである。

保坂一仁　甲州市教育委員会教育長
山中　宏　教育委員会生涯学習課長
小野正文　生涯学習課文化財指導監
飯島　泉　生涯学習課文化財担当リーダー
雨宮　亨　生涯学習課文化財担当
入江俊行　生涯学習課文化財担当

開発計画に伴う遺跡の所在確認と、不動産鑑定に伴う遺跡の所在確認については、23 年度は 209 件を数えた。内訳は、開発計画に伴うもの 160 件、不動産鑑定に伴うもの 49 件であった。

第２章　発掘調査等について

遺跡の所在確認後、周知の包蔵地内において具体的な開発行為の計画がある場合について、文化財保護法第 93 条及び 94 条の届出を提出していただき、一部は甲州市教育委員会で立会いとし、3 件については試掘調査を実施した。そのうち、本格調査が必要と認められた宇賀屋敷遺跡、五反田遺跡については発掘調査を実施することとした。五反田遺跡については、財団法人山梨文化財研究所に調査を委託し、平成 25 年度に発掘調査が行われる予定である。宇賀屋敷遺跡については、甲州市教育委員会が平成 23 年 4 月 12 日～ 5 月 31 日まで調査を行っており、平成 24 年度中に報告書が刊行される予定である。

発掘調査等の体制は次の通りである。

発掘調査担当者　飯島・雨宮・入江
発掘調査・整理作業員　雨宮久美子・栗原礼子・沢登淳子・萩原里江子・深沢茂子・正木なつ子

第３章　発掘調査等の概要

第１節　事業費

１　事業経費収支予算書

収入の部

	金　額	備　考
国庫補助金	1,350,000 円	2,700 千円の 50％
県費補助金	675,000 円	2,700 千円の 25％
甲州市負担金	675,000 円	
計	2,700,000 円	

支出の部

	金　額	備　考
報償費	0 円	
旅費	0 円	
賃金	1,600,000 円	発掘 100 日× 7,000 円、整理 150 日× 6,000 円
需要費	564,500 円	
消耗品費	65,000 円	ピンポール、脚立、コンテナ他
印刷製本費	499,500 円	22 年度報告書 1,500 円× 300 冊× 1.05
役務費	0 円	
委託料	0 円	
使用料及び賃借料	535,500 円	重機借り上げ 31,500 × 17 日
計	2,700,000 円	

2　事業経費収支精算書

収入の部　　（上段：予算額　下段：精算額）

	金　額	備　考
国庫補助金	1,350,000 円	2,700 千円の 50%
	1,350,000 円	
県費補助金	675,000 円	2,700 千円の 25%
	675,000 円	
甲州市負担金	675,000 円	
	675,000 円	
計	2,700,000 円	
	2,700,000 円	

支出の部　　（上段：予算額　下段：精算額）

	金　額	備　考
報償費	0 円	
	0 円	
旅費	0 円	
	0 円	
賃金	1,600,000 円	発掘 134.5 日× 7,000 円、整理 144.5 日× 6,000 円
	1,808,500 円	
需要費	564,500 円	
	341,389 円	
消耗品費	65,000 円	ピンポール、脚立、コンテナ他
	141,485 円	
印刷製本費	499,500 円	22 年度報告書
	199,500 円	
役務費	0 円	
	4,200 円	
委託料	0 円	
	0 円	
使用料及び賃借料	535,500 円	仮設ハウス借上げ 94,815 円、重機借上げ 451,500 円
	546,315 円	
計	2,700,000 円	
	2,700,000 円	

第２節　発掘調査等

１　宇賀屋敷遺跡

（１）所在地　　甲州市塩山下於曽字宇賀屋敷 1026 番４

（２）調査面積　約 216㎡

（３）調査原因　個人住宅建設に伴う試掘調査

（４）調査期間　平成 23 年４月 12 日～平成 23 年５月 31 日

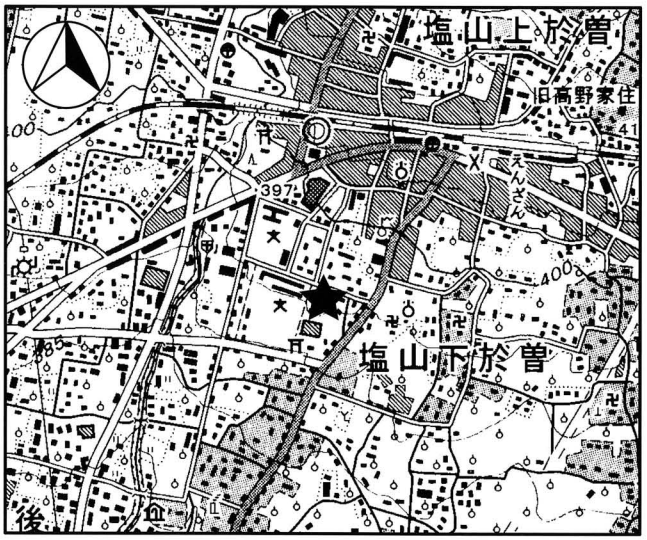
（５）調査結果

調査地は、西側に塩山中学校が隣接し、東側は平成４年に発掘調査が行われた塩山南児童センターに隣接する。その時の発掘調査成果によれば、竪穴住居跡６軒、掘立柱建物跡１軒、土坑１基を検出しており、平安時代の集落跡と考えられている。

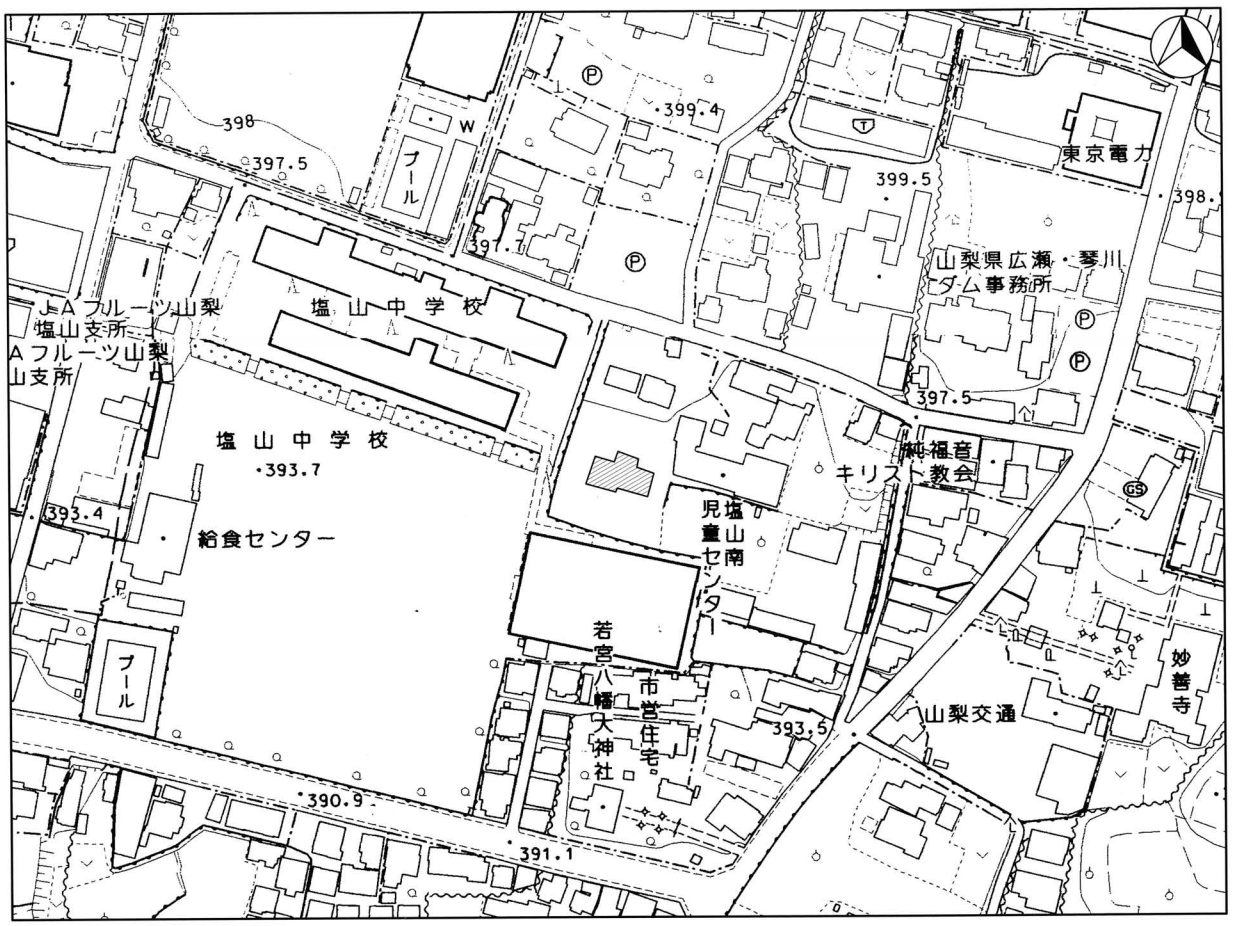
当初、工事範囲内に長さ１０ｍ、幅１ｍのトレンチを設定し、遺跡の有無を確認したところ、約６０ｃｍ掘り下げた地点で、土器片などの遺物と複数の遺構を確認したため、住宅建設工事により遺跡が破壊される範囲、約２１６㎡を対象に記録保存を目的とした調査を行った。竪穴住居跡２軒、溝４本、土坑３基、畝状遺構３本、小穴５２基である。

調査の結果、竪穴住居跡が２軒（１・２住）検出したことから、当該地点が東側に隣接する塩山南児童センター地点で発見された集落の一部であることが確認された。また、1・2溝は住居跡よりも時代が降り、出土遺物は少ないが、溝底面より出土した常滑産陶器片の存在から中世以降の溝と考えられる。集落廃絶後に土地利用の仕方や区画などにも変化が起ったものとみられる。

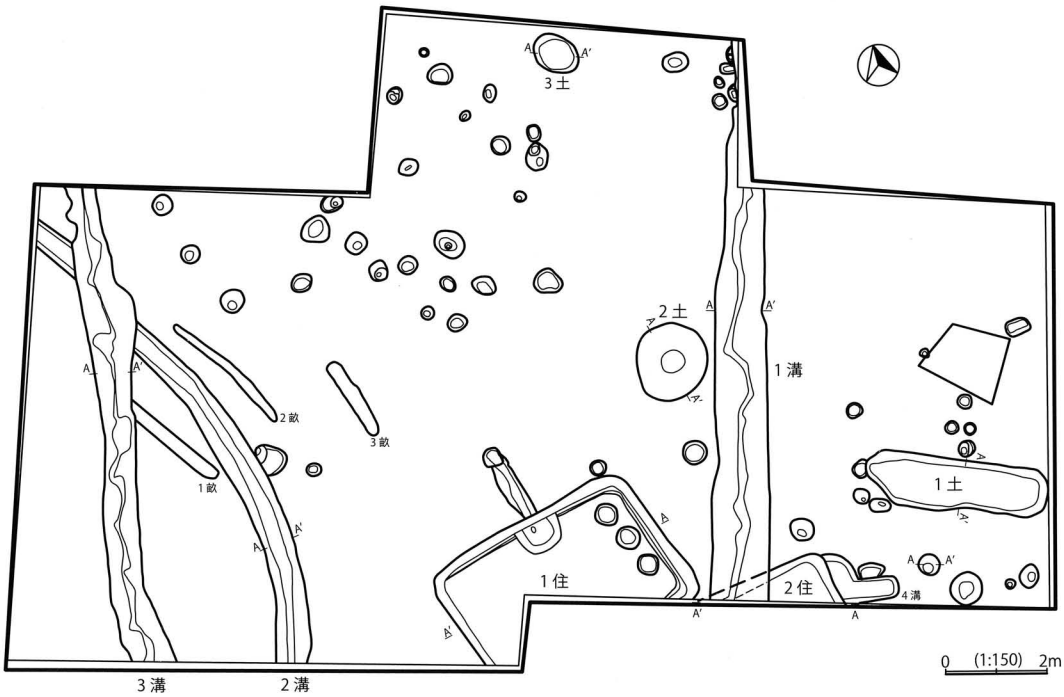
当該地の字名は宇賀屋敷と呼び、その周囲は於曽屋敷、田辺氏屋敷、風間氏屋敷など中世城館に囲まれている環境にある。今回の調査によって発見された遺構は、平安～中世の遺構であり、当地における平安時代の集落の存在と、その集落廃絶後の土地利用の変化を窺い知ることができる発見であったといえる。



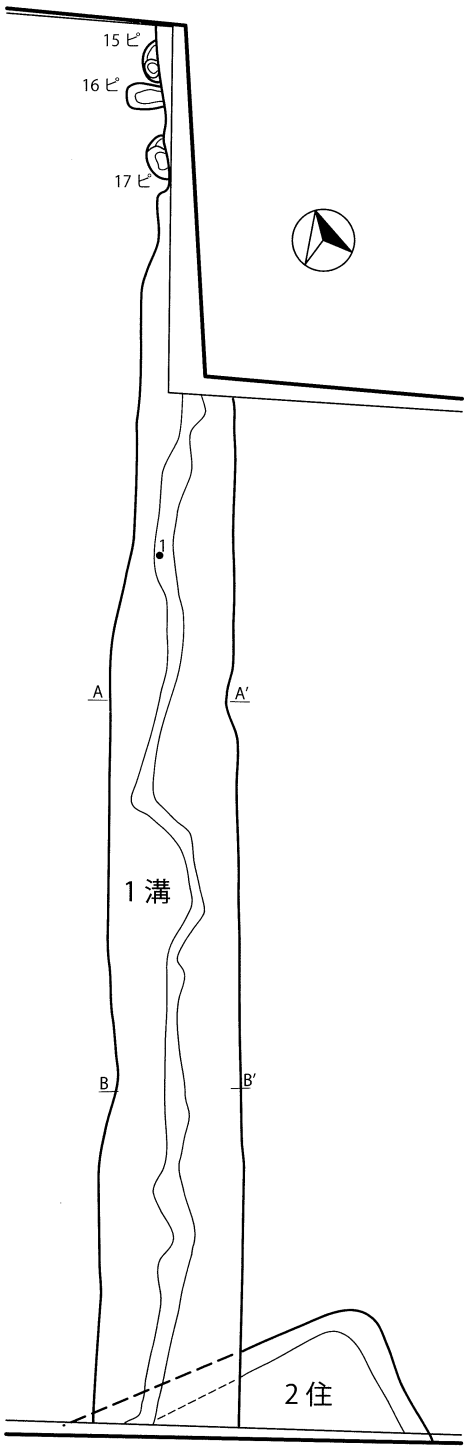
宇賀屋敷遺跡位置図



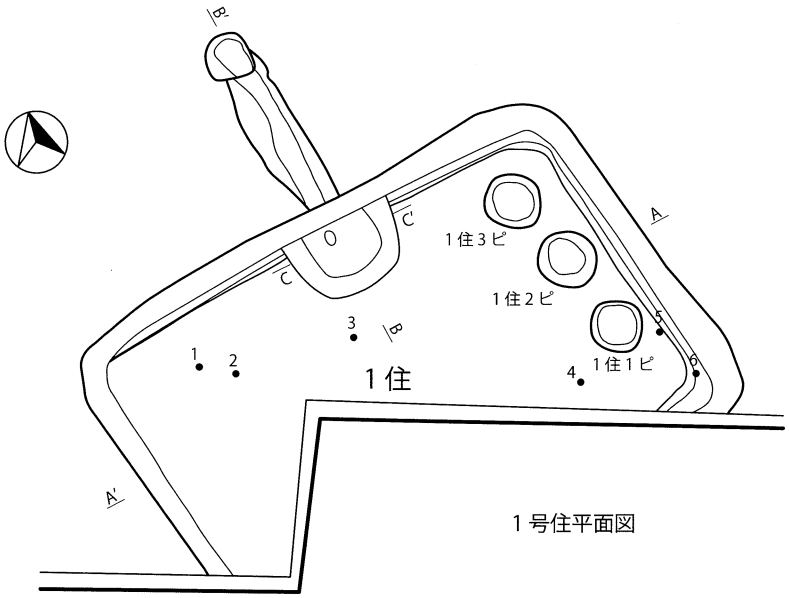
宇賀屋敷遺跡調査対象範囲図（1/2500）



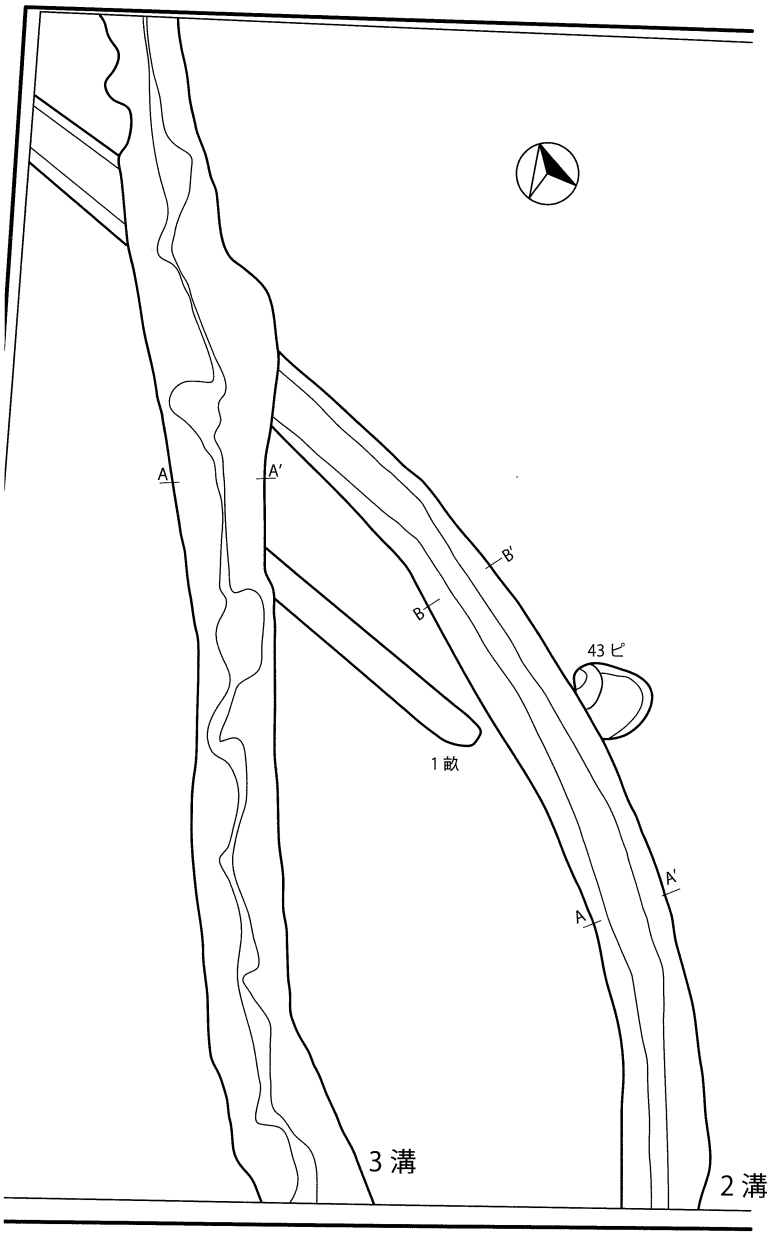
宇賀屋敷遺跡遺構配置図



1 号溝・2 号住平面図

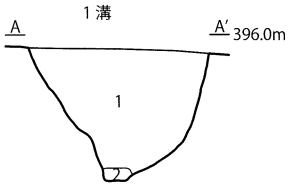


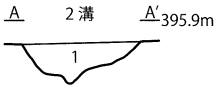
1 号住平面図



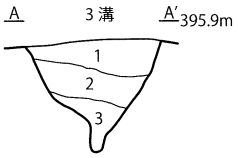
2・3 郷溝平面図

0 (1:60) 1m



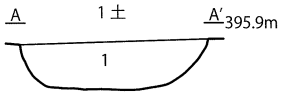


2溝A-A′土層説明
1．暗褐色土層　しまりあり、粘性あり。

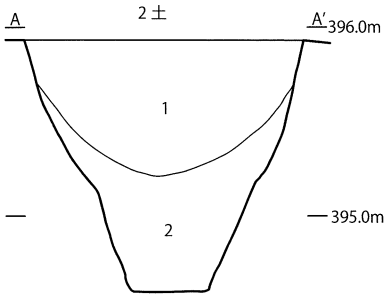


1溝A-A′土層説明
1．暗褐灰色土層　砂質。しまりややあり、
粘性ややあり。ローム粒微量含む。
2．灰褐色砂層　しまり弱い、粘性弱い、
細かい砂礫により構成される。

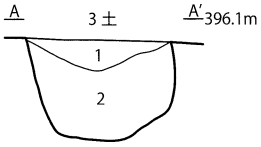
3溝土層説明
1．暗褐灰色土層　砂質。しまりあり、粘性あり、
ローム粒微量含む。
2．暗褐灰色土層　砂質。しまりややあり、粘性あり、
ローム粒微量含む。1層よりやや明るい。
3．暗褐灰色土層　砂質。しまりややあり、粘性あり、
ローム粒少量含む。



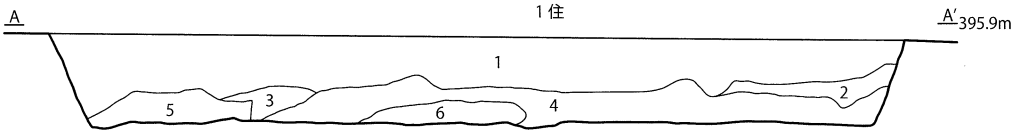
1土土層説明
1．暗褐色土層　しまりあり、粘性あり、
ローム粒やや多く含む。



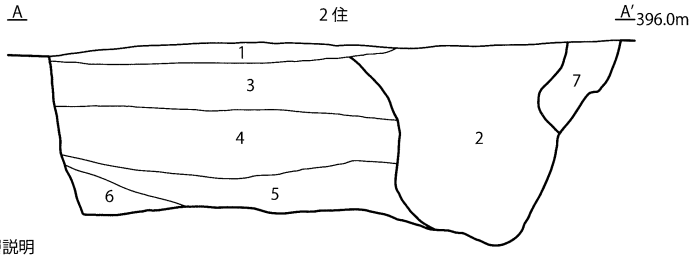
2土土層説明
1．黒褐色土層　しまりあり、粘性あり、
ロームブロックを多く含む。
2．黒褐色土層　しまり強い、粘性強い。
底面付近で砂礫を少量含む。



3土土層説明
1．暗褐色土層　しまり強い、粘性あり、
砂粒を少量含む。
2．暗黄褐色土層　しまり強い、粘性強い、
砂粒を少量含む、焼土粒
微量含む。



1住土層説明
1．暗黄褐色土層　しまり強い、粘性あり、ロームブロックを多く含む、焼土粒微量含む、白色粒子（砂？）微量含む。
2．黒褐色土層　しまり強い、粘性あり、ロームブロックを含む。
3．黒褐色土層　しまり強い、粘性あり、ロームブロック少量含む。
4．暗黄褐色土層　しまり強い、粘性強い、ロームブロックを多く含む。
5．暗黄褐色土層　しまり強い、粘性強い、ロームブロックを多く含む。
6．暗褐色土層　しまり強い、粘性あり、ロームブロック含む。



2住土層説明
1．暗褐色土層　しまりあり、粘性あり、ローム粒微量含む。
2．暗褐灰色土層　1号溝覆土。砂質。しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒微量含む。
3．黒褐色土層　しまりあり、粘性あり、ローム粒・焼土粒微量含む。
4．暗褐灰色土層　しまりあり、粘性あり、ローム粒含む。
5．暗褐灰色土層　しまりあり、粘性あり、ロームブロックを多く含む。
6．暗褐灰色土層　しまりあり、粘性あり、炭化粒微量含む。
7．3層に似る。

0　(1:40)　1m

調査前風景

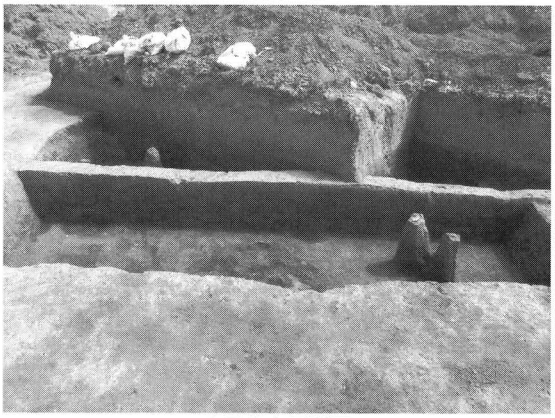
表土掘削

遺構検出作業

遺構検出①

遺構検出②

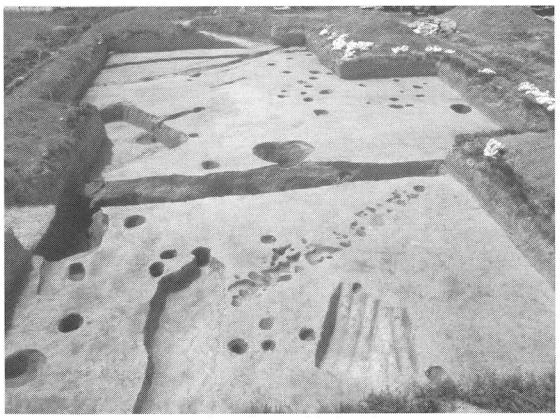
作業風景


1号住土層断面

1号住調査風景

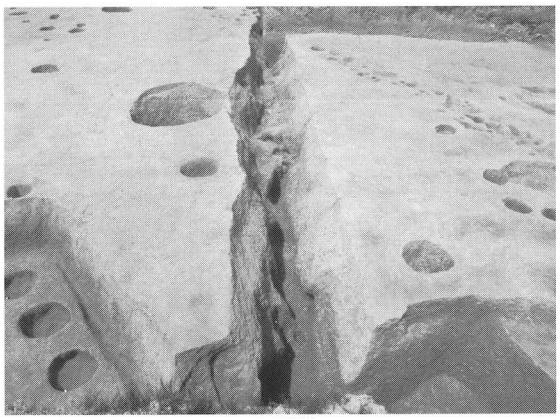
1号住カマド断面

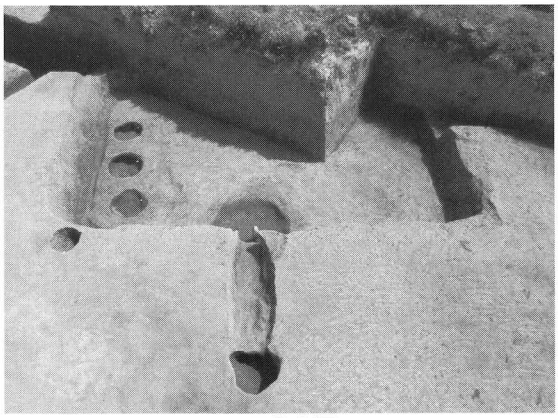
1号住カマド完堀


調査区全景（東から）

調査区全景（西から）

2・3号溝


1号溝


1号住完掘

2　殿林遺跡

（1）所在地　　甲州市塩山上萩原字殿林 208-1 の一部、208-4、208-5、209-4、209-5

（2）調査面積　約 24㎡

（3）調査原因　高齢者デイサービス施設建設に伴う試掘調査

（4）調査期間　平成 23 年 9 月 9 日

（5）調査結果

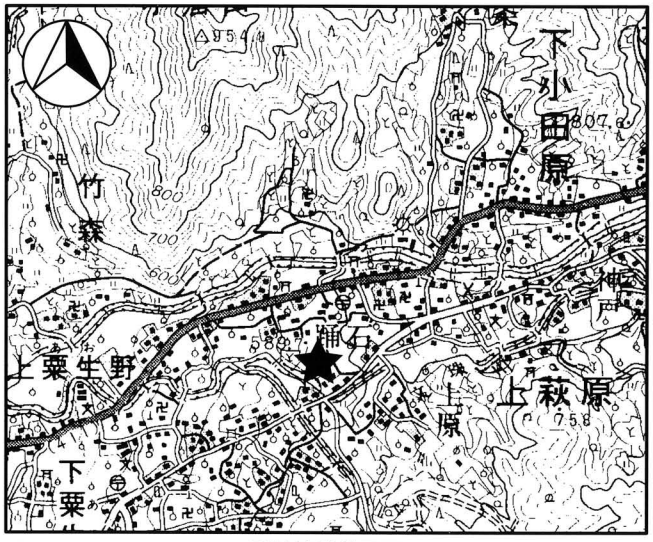
施設が建設される予定地内に２本のトレンチ（試掘坑）を設定し、重機による掘削の後、人力による遺構確認調査を行った。

調査区西側に設定したＡトレンチは長さ約 10m、幅約 1.2m で、トレンチ幅を拡張した部分では幅 2.4m を測る。遺構確認面までの掘削深度は約 10cm と非常に浅い。遺構確認の結果、風化礫の混じるローム面上で土坑２基、小穴５基を検出した。土坑はサブトレンチを入れて部分的に調査したところ深さ 10cm で底面に達し、小穴も 10cm 程度で底面に達した。遺物はいずれも出土していない。覆土は表土と似たしまりの弱い暗褐色土である。

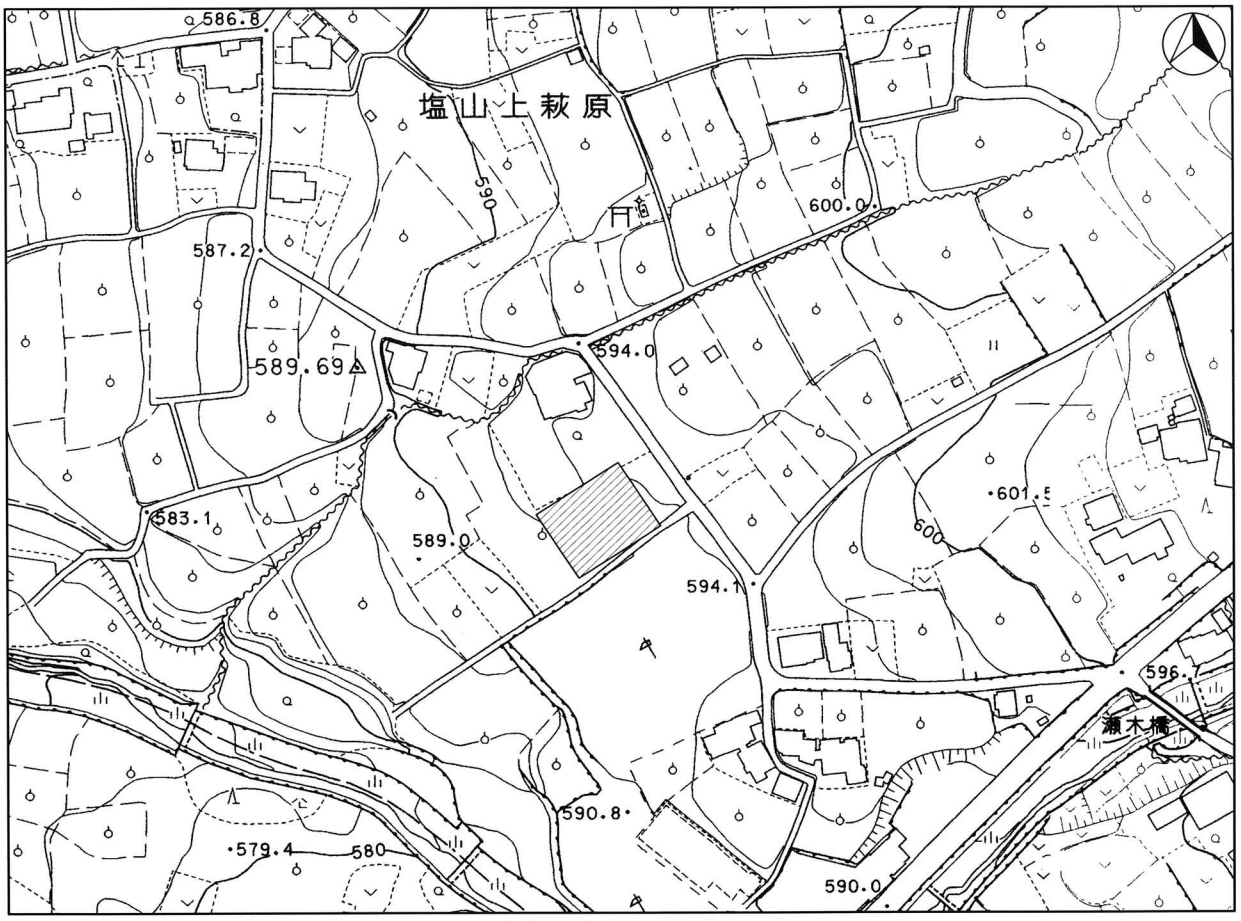
調査区東側に設定したＢトレンチは長さ約 10m、幅約 1.2m で、遺構確認面までの深さは約 30cm を測る。Ａトレンチ同様にローム面をもって遺構確認面として調査したが、現代の撹乱（ゴミ穴）以外、遺構を見出すことは出来なかった。地山のロームに風化礫が多量に混在しており、同地点で遺構を構築するには、悪条件となったであろうことが推定できる。遺物は出土していない。

以上のように、施設建設予定地内に２ヶ所のトレンチを設定し調査を行ったが、時代・性格の判定できる遺構を検出することは出来なかった。Ａトレンチでは土坑・小穴を検出したが、いずれも非常に浅く、遺物も出土しなかった。覆土も表土と非常に似ているため、現代のものである可能性が高い。また、遺構確認面までが 10cm と非常に浅く、隣接する北側の舗装された空き地が盛土して形成されていることから、調査地点は過去に削平されたことが窺える。遺構確認面までが非常に浅いこと、遺構の残りが悪いこと、遺物が１点も出土しないことも過去に行われた削平を原因としたものと推定される。

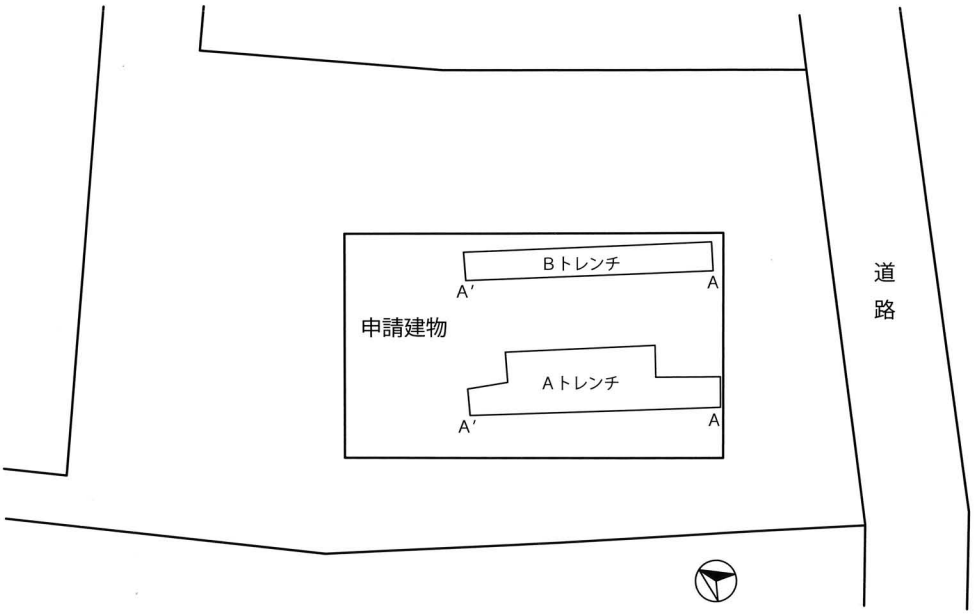
このような条件下にあるため、遺構と考えられる掘り込みはみられるものの、残存状態も悪く、調査対象とするような中世以前に遡る遺構・遺物の検出もみられないため、本調査は実施しないこととした。



殿林遺跡位置図

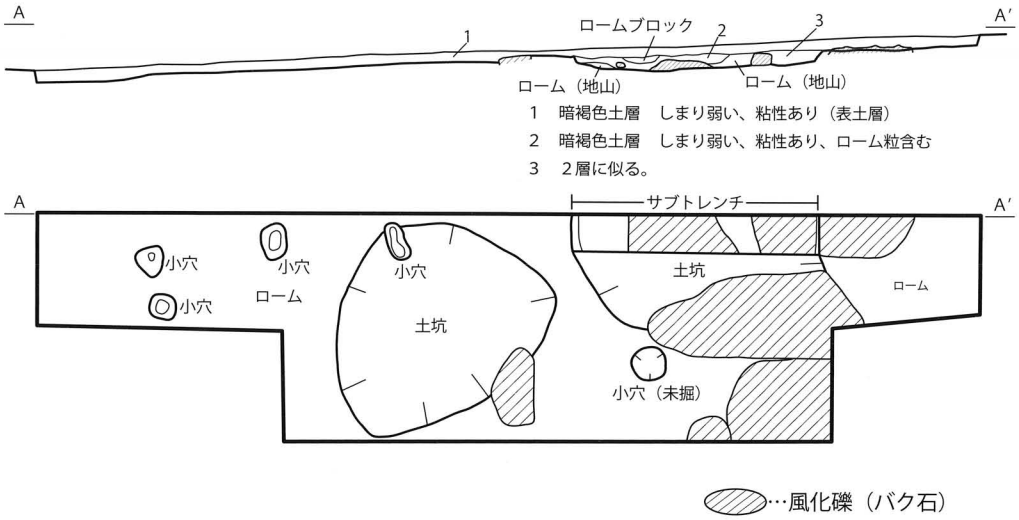


殿林遺跡調査対象範囲図（1/2500）

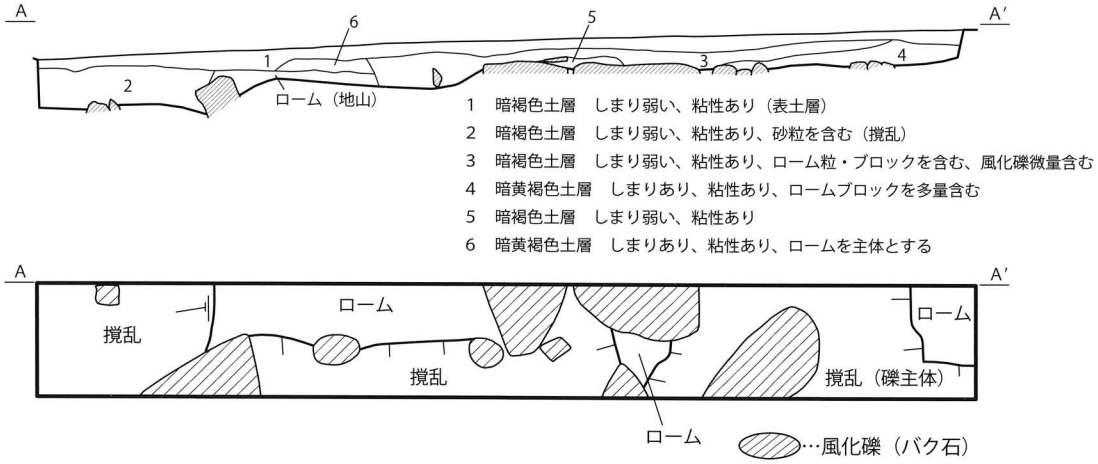


調査区配置図

Aトレンチ平面図・断面図



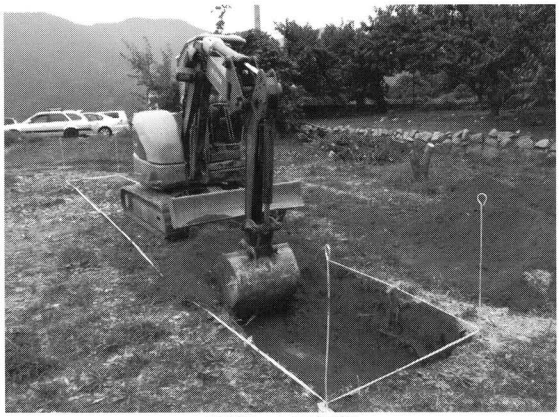
Bトレンチ平面図・断面図



0　(1:80)　1m

調査前風景

調査風景


重機による掘削

Aトレンチ断面

Aトレンチ遺構確認状況

Bトレンチ遺構確認状況

Bトレンチ断面

3　五反田遺跡

（1）所在地　　甲州市塩山熊野字横井 516

（2）調査面積　約 103.8㎡

（3）調査原因　店舗建設に伴う試掘調査

（4）調査期間　平成 24 年 3 月 13 日～平成 24 年 3 月 31 日

（5）調査結果

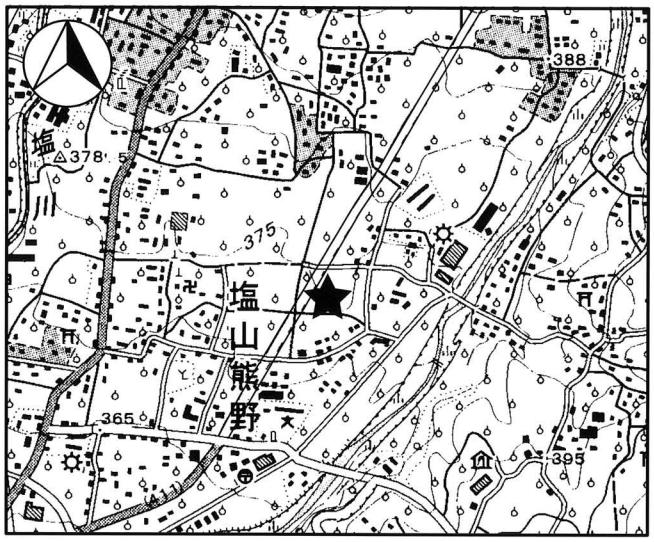
調査区のすぐ西側には塩山バイパス（国道 411 号線）が南北に走っており、その建設に伴って調査された五反田遺跡が所在する。その時の発掘調査成果によれば、古墳時代～平安時代の竪穴住居跡が検出しており、集落跡の存在が確認されている。

当該敷地内に遺跡が存在するか確認するため、3ヶ所のトレンチ（A～C）を設定し調査を行った。

Aトレンチは約 30m × 1.2m で設定し、地表下約 90cm で地山とみられる自然堆積層を検出し、遺構確認を行った。その結果、溝 1 本、ピット（小穴）2 基を検出した。溝（1 号溝）は幅約 3.3m、南北に走る溝であるが両端はトレンチの外に延びる。深さは確認面から約 50cm を測り、壁面はゆるやかに立ち上がる。平安時代の土師器片が出土している。

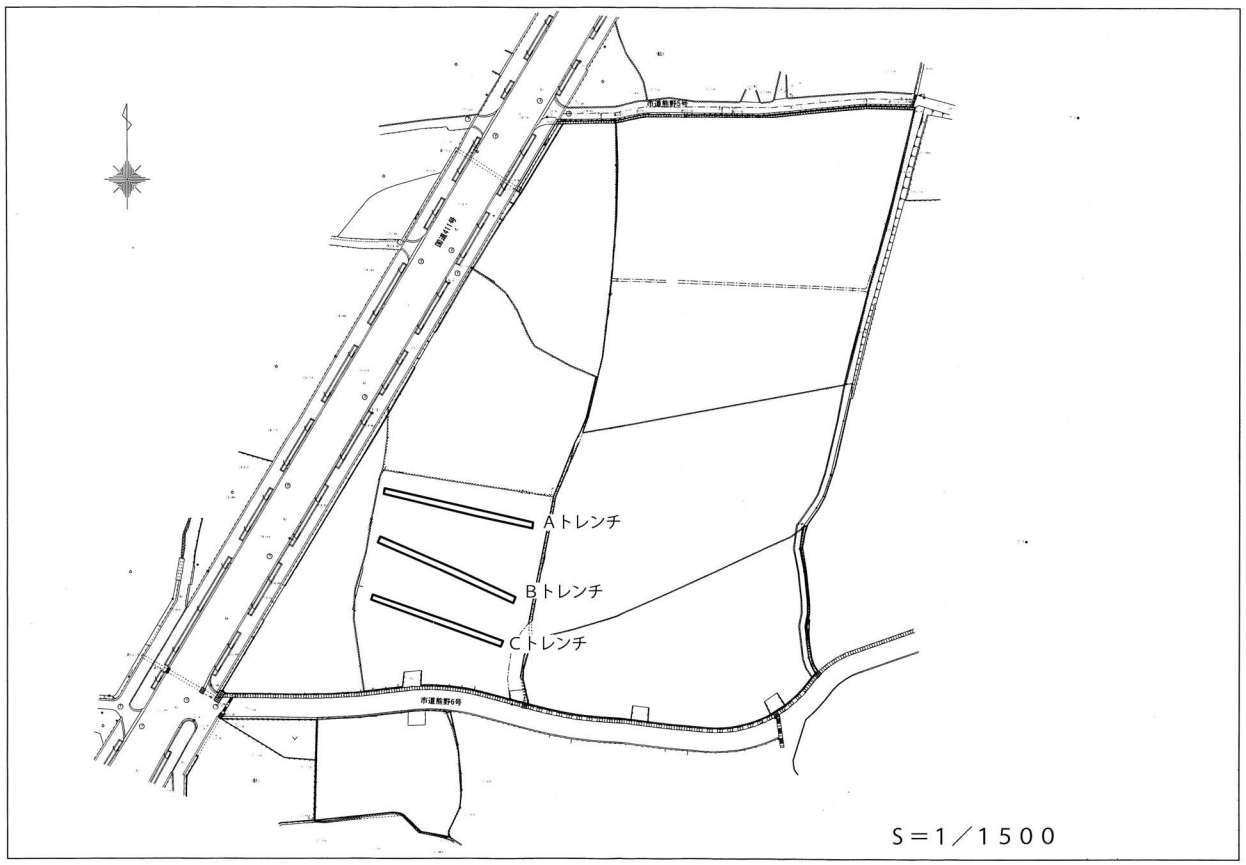
Bトレンチは約 29m × 1.2m で設定し、地表下約 1.1m で土器片や焼土が面的に広がる部分を検出したため、重機による掘削を停止し、人力による遺構確認作業に切り替えた。その結果、複数の竪穴住居跡、溝 1 本、ピット 1 基を検出した。竪穴住居はトレンチの西端に位置し、遺構を掘削していった結果、3 軒の重複が考えられた。Bトレンチ内で最も明瞭に検出できたのは 2 号住で、3 号住、4 号住はほとんどが調査区外に延びるため詳細は不明である。2 号住は東側に石組のカマドを持つ竪穴住居で 1 辺が 3.1m 以上、カマドの煙道は南面断面で確認した結果、約 1.6m の長さを測る。床面は貼り床とみられる粘土層が一部残存しており、掘り方まで深さは約 15cm である。遺物の出土量も今回の調査の中で一番多く、土師器、須恵器が出土しており、平安時代の住居跡と考えられる。

Cトレンチは約 27.5m × 1.2m で設定し、地表下約 90cm で地山と考えられる地層面を検出し、遺構確認を行った。その結果、竪穴住居跡 1 、ピット 2 基を検出した。住居跡（1 号住）は 1 辺が約 4.4m 以上の規模を持つことが推定される。確認面からの深さは約 50cm を測り、壁面はやや緩い立ち上がりである。遺物は土師器を主体とし、平安時代の住居跡と考えられる。



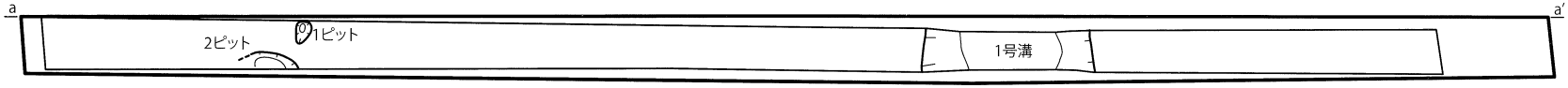
五反田遺跡位置図

五反田遺跡調査対象範囲図（1/2500）

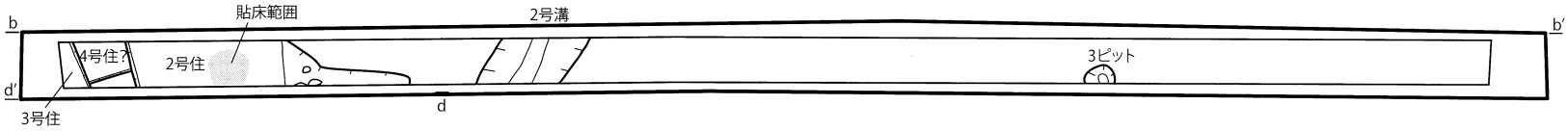


調査区配置図

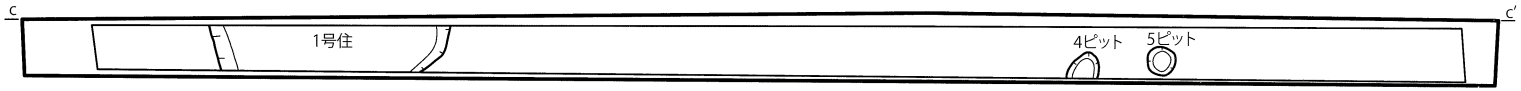
Aトレンチ



Bトレンチ

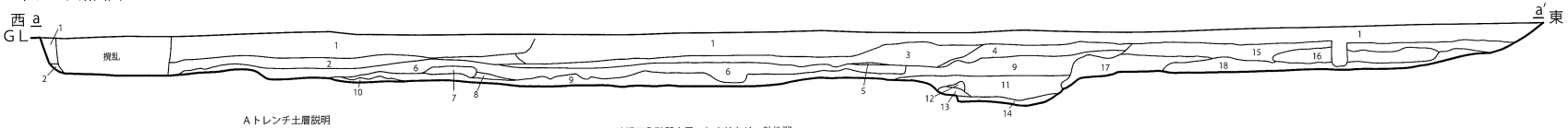


Cトレンチ



0 (1:140) 2m

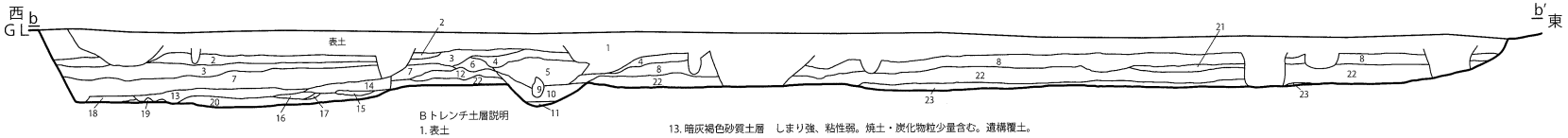
Aトレンチ断面図



Aトレンチ土層説明

1. 表土
2. 暗茶褐色砂質土層　しまり強、粘性弱。酸化鉄粒含む。
3. 灰褐色砂質土層　しまりあり、粘性ややあり、暗黄褐色粘土粒を少量含む。
4. 褐灰色砂質土層　しまり強、粘性弱。
5. 灰褐色砂質土層　灰白色砂層が筋状に薄く堆積している。
6. 黒褐灰色砂質土層　しまりあり、粘性弱。
7. 灰白色砂層　しまりあり、粘性弱。
8. 暗茶褐色砂質土層　しまりあり、粘性弱。
9. 黒褐灰色砂質土層　しまりややあり、粘性弱。
10. 暗褐灰色砂質土層　しまりあり、粘性弱。
11. 黒褐灰色砂質土層　しまりあり、粘性弱。9層よりやや明るい。遺構覆土。
12. 暗灰褐色砂質土層　しまり強、粘性ややあり。遺構覆土。
13. 灰褐色砂質土層　しまり強、粘性弱。遺構覆土。
14. 明茶褐色砂質土層　しまり強、粘性弱。地山層。
15. 暗灰褐色砂質土層　しまりあり、粘性弱。
16. 褐灰色砂質土層　しまりあり、粘性弱。
17. 明褐灰色砂質土層　しまりあり、粘性ややあり。
18. 黒褐灰色砂質土層　しまりあり、粘性弱。

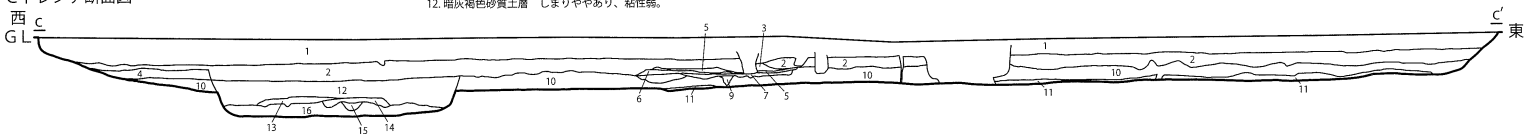
Bトレンチ断面図



Bトレンチ土層説明

1. 表土
2. 暗灰褐色砂質土層　しまり強、粘性弱。
3. 暗茶褐色砂質土層　しまり強、粘性弱。
4. 暗灰褐色砂質土層　しまり強、粘性弱。
5. 灰褐色砂質土層　しまり強、粘性弱。
6. 灰褐色砂質土層　5層より暗い。しまり強、粘性弱。
7. 暗灰褐色砂質土層　しまりややあり、粘性弱。土器片含む。
8. 暗灰褐色砂質土層　しまりややあり、粘性弱。
9. 灰白色砂層　しまり強、粘性弱。
10. 黒灰褐色砂質土層　しまりあり、粘性ややあり。
11. 明灰褐色砂質土層　しまり強、粘性弱。
12. 暗灰褐色砂質土層　しまりややあり、粘性弱。
13. 暗灰褐色砂質土層　しまり強、粘性弱。焼土・炭化物粒少量含む。遺構覆土。
14. 褐灰色砂質土層　しまりやや強、粘性あり。焼土・炭化物・ローム粒を含む。遺構覆土。
15. 明黄褐色砂質土層　しまり強、粘性ややあり。貼り床か。
16. 暗灰褐色砂質土層　13層よりやや明るい。しまり強、粘性弱。焼土・炭化物粒少量含む。遺構覆土。
17. 暗灰褐色砂質土層　16層より暗い。しまり強、粘性弱。焼土・炭化物粒微量含む。遺構覆土。
18. 暗灰褐色砂質土層　13層より明るい。しまり強、粘性弱。焼土・炭化物粒少量含む。4住覆土か。
19. 暗黄灰褐色砂質土層　しまり強、粘性弱。地山層。
20. 暗灰褐色砂質土層　しまり強、粘性弱。焼土・炭化物粒含む。掘り方層。
21. 黒褐色・茶褐色・灰褐色砂質土が互層に薄く堆積。水性堆積か。
22. 褐灰色砂質土層　しまりあり、粘性弱。地山層。
23. 黒灰褐色砂質土層　しまりあり、粘性弱。地山層。

Cトレンチ断面図



Cトレンチ土層説明

1. 表土
2. 暗褐灰色砂質土層　しまりあり、粘性弱。
3. 明茶褐色砂質土層　しまりややあり、粘性ややあり、焼土・炭化物ブロック多。
4. 黒褐灰色砂質土層　7・8層に対応か。しまりあり。粘性弱。
5. 黒褐色砂質土層　しまりあり、粘性あり、炭化物を主体とする。焼土粒多量含む。
6. 2層より明るい。しまりやや強い、粘性弱。
7. 黒褐灰色砂質土層　しまりやや強、粘性弱。
8. 黒褐灰色砂質土層　しまり強、粘性ややあり。
9. 7層よりやや明るい。
10. 明灰褐色砂質土層　しまりやや強、粘性弱。
11. 黒褐灰色砂質土層　しまりやや強、粘性ややあり。
12. 暗茶褐色砂質土層　しまり強、粘性ややあり。遺構覆土。
13. 暗灰褐色砂質土層　しまり強、粘性弱。灰褐色・黒褐色砂質土がブロック状に混じる。遺構覆土。
14. 暗茶褐色砂質土層　しまりやや強い、粘性弱。遺構覆土。
15. 暗灰褐色砂質土層　14層より暗い。遺構覆土。
16. 明灰褐色砂質土層　しまり強、粘性弱。地山層。

0　(1:140)　2m

表土掘削

Ａトレンチ（西から）

Ａトレンチ遺構確認（南東から）

Ａトレンチ１号溝（北東から）

Ｂトレンチ（西から）

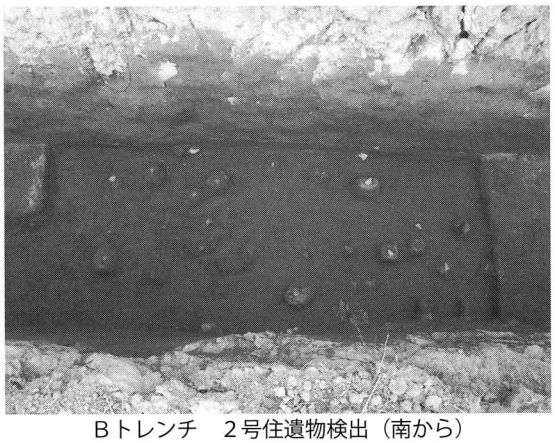
Ｂトレンチ遺構確認（西から）

Ｂトレンチ　焼土遺構？検出（南から）

Ｂトレンチ　２号住遺構検出（南から）

Ｂトレンチ　２号溝検出（南から）

Ｂトレンチ　２号溝完掘（北東から）


Ｂトレンチ　２号住遺物検出（南から）

Ｂトレンチ　２号住カマド断面（北から）

Ｃトレンチ（西から）

Ｃトレンチ　１号住検出（南東から）

Ｃトレンチ　１号住遺物検出（南東から）

作業の様子

報 告 書 抄 録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさとうじぎょうほうこくしょ
書名	平成23年度　市内遺跡発掘調査等事業報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書
シリーズ番号	第14集
編著者名	飯島泉・雨宮亨・入江俊行
編集機関	甲州市教育委員会
所在地	〒404-8501　山梨県甲州市塩山上於曽1085-1　電話0553-32-5097
発行年月日	平成25年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	世界測地系 北緯	世界測地系 東経	調査期間	調査面積	調査原因
宇賀屋敷遺跡（うがやしきいせき）	甲州市塩山下於曽字宇賀屋敷（こうしゅうしえんざんしもおぞあざうがやしき）1026番（ばん）4	19213	塩47	35°42′7″	138°43′45″	平成23年4月12日～5月31日	約216㎡	住宅建設
殿林遺跡（とのばやしいせき）	甲州市塩山上萩原字殿林（こうしゅうしえんざんかみはぎはらあざとのばやし）208-1の一部、208-4、208-5、209-4、209-5	19213	塩152	35°43′28″	138°45′48″	平成23年9月9日	約24㎡	高齢者デイサービス施設建設
五反田遺跡（ごたんだいせき）	甲州市塩山熊野字横井（こうしゅうしえんざんくまのあざよこい）516	19213	塩30	35°41′34″	138°43′55″	平成24年3月13日～3月31日	約103.8㎡	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宇賀屋敷遺跡	集落	平安・中世	竪穴住居跡・溝・土坑・畝状遺構・小穴	土師器・須恵器・灰釉陶器・陶器・石器・銅製品	長い煙道を持つ竪穴住居跡を検出。
殿林遺跡	集落	縄文時代	小穴	なし	
五反田遺跡	集落	平安	竪穴住居跡・溝・土坑・小穴	土師器・須恵器・石器	Bトレンチ2号住居跡から多量の土師器片が検出された。

山梨県甲州市
平成23年度　市内遺跡発掘調査等事業報告書
２０１３
編集　甲州市教育委員会　生涯学習課
山梨県甲州市塩山上於曽1085-1
0553-32-5097
発行　甲州市教育委員会
平成25年3月31日
印刷　株式会社　峡南堂印刷所

甲州市文化財報告書　第14集

平成二十三年度　市内遺跡発掘調査等事業報告書

二〇一三年三月

甲州市教育委員会